

◆ブロック司祭団より

昨年度の宣教司牧計画の評価を受けて、司祭団で話し合いを行い、2026年度の京都北部ブロックの方向性・課題・目標を次のようにまとめました。以下の諸課題を実行するために、司祭同士がよく連絡を取り合い、協力して進めていきたいと考えています。

① 国際交流の場としての教会共同体づくり

《現状》

- ・ 西舞鶴と福知山では、毎月第2・第3日曜日の午後2時に、フィリピン人信徒のための英語ミサが行われている(指導司祭:アントニオ神父)。黙想会も行われ、結束が強まっている。シスター・ララの協力もあり、活動が活発化している。
- ・ 福知山と東舞鶴では、毎月第1日曜日を「国際交流ミサ」としており、日本人信徒も奉仕に参加している。
- ・ 外国籍信徒はフィリピン人だけでなく、ベトナム人も多い。特に福知山では若いベトナム人が毎週ミサに参加している。ベトナム語ミサは毎月最終日曜日の午後2時に行われ、ナン神父が担当している。

《課題》

- ・ 多国籍の信徒と協力しながら新しい共同体をつくるのが大きな課題。ミサだけでなく、子どもたちの洗礼・初聖体・堅信のための勉強会が今後さらに必要になる。司祭同士の情報共有が重要な鍵となる。
- ・ フィリピン人の子どもたちを対象にした教会学校も、今後の大きなテーマとなる。信徒との協力体制づくりが求められる。

② 青少年の人材育成

《現状》

- ・ 旧来の信徒の高齢化が進む一方、若い世代のミサ参加が減っている。洗礼は受けていても、その後のカテキズムや教会学校への参加が進まない。
- ・ 現在、教会学校があるのは東舞鶴と丹後の2か所のみ。東舞鶴:毎月第1日曜日のミサ後。丹後:2か月に1回、土曜日午後2時、岩滝聖堂で実施。

《課題》

- ・ 国際化が進む中、フィリピン人の子どもたちの教会参加が課題である。若い世代の育成のため、教会学校の充実が必要なこと。

③ 課題実行委員会の設置

《現状》

- ・ 各共同体には個別の課題があり、それぞれ実行委員会を設置して対応してきた。峰山・大宮礼拝堂検討委員会は、昨年、峰山・大宮・網野の司祭館の解体が完了。
- ・ 宮津聖ヨハネ天主堂の耐震診断:ボーリング調査が今年開始。足場も3月末に設置予定。

《課題》

- ・ 今後も峰山・大宮検討委員会は継続して、跡地の活用問題を解決に持っていくことが今後の課題。
- ・ 墓地管理:管理委員会を設置し、今後は「墓地委員会」として一つにまとめて運営していく。

④ インターネット環境の整備

《現状》

- ・ 宮津・西舞鶴・福知山ではWi-Fi整備が進み、利便性が向上した。宮津では防犯カメラの堂内増設が今後の課題。
- ・ Wi-Fi整備により、司祭・信徒・役員間の情報共有がスムーズになり、相互理解が深まった。
- ・ ブロックには現在4名の司祭がいる。順番に記事を書き、巻頭言として文書やHP・Facebookで公開している。

《課題》

- ・ 各共同体間の行事やイベントの情報共有は、まだまだ不十分であり、交流促進のために改善が必要。今後さらに強化していく必要がある。

<その他の課題>

- ・ 各共同体の祈りの会・勉強会・黙想会などで聖書の分かち合いや「霊における会話」を取り入れたシノドス的な取り組みを進める必要がある。
- ・ 「絶えざる御助けの9日間のノヴェナ」は丹後共同体で続けてきたが、今後は他の共同体でも実施したい。西舞鶴では毎週金曜15:15から祈りが行われている。
- ・ 年2回の黙想会も、従来の講話中心の形式から、〈霊における会話〉を通じた分かち合いへと移行していくべきであるし、そうしてきた。すでに待降節・四旬節の黙想会で実践してきた。

《今後の課題と方向性》

- ・ 今後は信徒の中からファシリテーターを育成し、司祭と協力して新しい黙想会の形を確立していく。
- ・ 聖書通読の会などもあるが、広げるための工夫がまだ足りない。
- ・ 国際ミサを信徒同士の交流の場としてより活用し、情報発信と共有を通して参加者を増やしたい。
- ・ 単なる報告で終わらず、実際に「共に参加する場」となることを目指す。
- ・ 毎年5月末に行われていた「ガラシア祭」の復活も検討する。
- ・ 昨年は「希望の巡礼者」をテーマに活動したが、今年は「和解と一致」をテーマとしたい。「和解とは何か」「和解の結果としての一致とは何か」など、これらを共考え、新しいシノドス的な道を探っていく。

【各共同体の2026年度の課題とテーマは何か？】

—京都北部ブロック各共同体の評価・課題として—

記録：2026年2月6日
モデラートル トマス頭島光神父

《丹後教会》：

1. 出向いて行く教会活動を進めましょう。
教会が国際交流の場として多言語、多様性を尊重して一つの共同体として歩めるように、ミサ奉仕、朗読、信仰教育などを工夫して行きましょう。
2. 多くの人を迎える教会作りを進めましょう。
昨年は宮津天主堂が聖年の巡礼教会に指定され約2,000人の方々が訪問してくださいました。今年も訪問者対応を継続し、豊かな交わりが出来るよう工夫して行きましょう。
3. 課題解決のための具体的な取り組みを進めましょう。
 - ・ 宮津天主堂の耐震診断工事が開始され、いよいよ改善に向けての具体的な取り組みが始まります。
 - ・ 今後の工事に向けて募金の取り組みを教区と連携して進めていきます。
 - ・ 大宮・峰山の施設の福祉活動への活用について、引き続き特別委員会で検討を進めていきます。

《東舞鶴教会》

2026年 東舞鶴教会宣教司牧計画

<長期計画>

福音宣教するブロック共同体となるために

- 司祭・修道者・信徒が協働し、ともに歩む共同体作りを進めよう。
- 聖霊に従い弱い立場の人々の声に耳を傾け、イエスとともに歩もう

<短期計画>

- 国際社会にあって、外国籍の方々との交わりを大切にし、ともに喜び祈る共同体を目指そう。
 - ・ ミサや行事を通じて積極的に共同体に関わってもらい機会を設ける。
 - 多様性を尊重し、次世代の子どもや若者たちの信仰をともに育てよう
 - ・ 日曜学校を継続していく事で、子供たちの教会での居場所作りを行う
 - ・ SNS等を活用して若い人たちへの呼びかけを積極的に行い、共同体への参加を促す。
 - コミュニケーション方法を工夫し、現状に合った教会の在り方を見直そう。
 - ・ 掲示物等の活用やメッセージの配布を継続的に行い、SNSを活用した広報活動も進める。

・ 司祭と協力して、身体の不自由な方、病気の方、教会に来られない方への連絡・訪問を行う。又希望者に聖書と典礼を送付する

- 葬儀委員会・組織の東西舞鶴の連携を模索する
- ・ 東西で合同委員会を持ち、共同墓地やその他の事項について検討する

《福知山教会》

<長期目標>

- ・ 共に歩む教会、交わり、参加そして宣教する共同体になる。
- ・ 外国の方々と力を合わせ、共同体をつくり、計画と実行を敢行する。

<短期目標>

- ・ 教会の中で、希望をもって、多文化共生の道を求めるよう、文化交流の場を持つ。
- ・ 信徒名簿の修正。教会に来ることができない方などの分けを明確にしたい。
- ・ 冠婚葬祭の打ち合わせと参列へのお願い。
- ・ 綾部にある霊園墓地の委員会を作ること。
- ・ 墓地会計を教会会計とは別にすることなど検討の余地あり。

《西舞鶴教会》

<長期目標>

- ・ <和解と一致>テーマに、誰にも分かり易い教会になることを、今年一年の目標とする。
- ・ 周辺地域の住む人にも親しみ易い、入り易い教会になろう。
- ・ 皆の拠り所になる教会を目指す。

<短期目標>

- ・ そのために、分かり易いミサへの参加手引書を作成すること。主の祈りやアヴェ・マリアの祈りのパンフを置くなどのこと。
- ・ 評議会などの会議の時に、共同宣教司牧の振り返りをする。そもそも宣教、共同司牧とは何ですか、と自分自身に問う一年にしたい。